

# かけがえのない宝物



日本生命保険社長  
経団連人口問題委員長

しみず ひろし  
清水 博

41歳で留学の機会を得た。30歳でめぐってきた経営修士(MBA)留学のチャンス仕事を関係で諦めざるを得なかった目からずっと心残りに感じ、再挑戦する機会を探していた。会社全体の決算や予算を取りまとめる課長職にあったが、微塵(みじん)の迷いもなく留学を申し出た。上司は困惑したと思うが、快く送り出してくれた。上司と会社の懐の深さに心から感謝している。

多様な文化と考えに刺激を受け、それまでの自分を揺さぶられた1年半の経験は、かけがえのない財産になった。その後の個人として、また経営者としての視野や考察、統率、行動の全てに大きな影響を及ぼしている。

しかし、ロンドンビジネススクールのスローンマスターズでの現実、こんなはずではないと悩む日々の連続であった。60数人のクラスは15の国籍と平均年齢35歳からなる多様性にあふれ、クラスメイトは(日本人3人を除く)全員が輝かしい経歴を持つ成功者ばかりであった。自信に満ちた議論はレベルが高いうえに展開が早く、それにふさわしい考えを組み立て、言おうと思った時にはすでに議論は違うところに移って発言できない。どう思うと突然聞かれても気の利いた意見を述べられない。深夜まで資料を読み込み、発言案を用意して最初に意見を述べても、その後の議論の流れに乗って2弾3弾の意見を重ねることができない。毎日劣等感を感じて

いた。

それでも英語にさらされ続けた効果だろうか。夢の中で英語で話していた。その後も何度か英語の夢を見た。うれしかった。だからといって英語が上達したわけではなかった。

転機は現実を受け入れることだった。不要なプライドを捨て、英語の能力の低さを冷静に受け止め、英語の言い回しや議論の仕方、行動様式などを観察し、理解し、吸収することに徹した。議論をするときは相手を尊重し、意見をきちんと聞くこと。自分の意見を主張するときは、相手との違いをはっきりさせながら理路整然と述べること。議論を楽しむこと。議論では大きく食い違っても議論を離れればとてもフレンドリーであることなど。そして何よりもその環境にいることを楽しもうと決め、実際に楽しんだ。

1年半の留学生活はきつかったが、楽しかった。それまでの自分が揺さぶられ、立て直すことを経験し、大げさにいえば自分を再構築したとも感じる。帰国後半年たった頃、夢を見た。クラスメイトのイギリス人が大阪弁で話していた。英語脳が失われたと感じた瞬間だった。

今は英語でコミュニケーションを取ることを積極的に楽しんでいる。留学以来ロンドンは大好きな街になっている。20年前の留学はかけがえのない宝物である。